

Effect of Reverse Vessel Remodeling on Regression of Coronary Atherosclerosis in Patients Treated With Aggressive Lipid- and Blood Pressure-Lowering Therapy - Insight From MILLION Study -

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00049654

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



論文の内容要旨及び審査結果の要旨

受付番号 医博甲第 2596 号 氏名 蒲生 忠継

論文審査担当者 主査 村山 敏典

副査 竹村 博文

山本 靖彦

学位請求論文

題名 積極的な脂質降下療法および降圧療法を施行した患者における冠動脈硬化退縮に対する逆血管リモデリングの影響—MILLION 研究からの洞察—

掲載雑誌名 Circulation Journal 2017 年掲載予定 (doi: 10.1253/circj.CJ-16-1253)

【背景】冠動脈プラークの進展に伴い血管は代償性に拡大する。この陽性リモデリングにより血管内腔は保持される。また、これまで我々は血管内超音波 (IVUS) を用いた MILLION 研究において、アトルバスタチンとアムロジピンにより脂質および血圧を同時に治療介入することで冠動脈プラークが退縮することを報告した。今回冠動脈プラーク退縮に関連する因子を見出すためにさらなる検討を加えた。

【方法】MILLION 研究においてベースラインとフォローアップ (治療介入 18~24 か月後) の両方で IVUS を施行し、3D 解析による IVUS 指標 (冠動脈の血管、プラーク、内腔それぞれの体積) を評価した。そのうち冠動脈プラーク退縮を示した 52 症例について検討を行った。IVUS データは臨床所見を知らない観察者によりオフラベルで解析した。

【結果】主にアトルバスタチンを用いることで、LDL コレステロールは 118.3 mg/dL から 68.0 mg/dL ($P < 0.0001$) へ低下した。また、主にアムロジピンを用いることで、収縮期血圧は 138.6 mmHg から 118.5 mmHg ($P < 0.0001$)、拡張期血圧は 81.3 mmHg から 70.7 mmHg ($P = 0.0001$) へそれぞれ低下した。プラークは 64.8 mm^3 から 55.8 mm^3 ($P < 0.0001$)、血管は 135.0 mm^3 から 127.5 mm^3 ($P = 0.0008$) へ退縮したが、内腔は 70.1 mm^3 から 71.8 mm^3 ($P = 0.27$) と横ばいであり、陽性リモデリングとは逆の機序で退縮することが示された。この逆血管リモデリングは脂質や血圧低下との相関関係が認められなかった。一方で、逆血管リモデリングとベースラインの血管体積 ($r = -0.352$, $P = 0.009$) およびベースラインのプラーク体積 ($r = -0.336$, $P = 0.01$) はそれぞれ負の相関関係がみられた。

【結論】以上の結果より、脂質および血圧を積極的に低下させた患者群において冠動脈プラークは逆血管リモデリングの機序で退縮し、それは脂質や血圧の低下ではなくベースラインの血管やプラーク量に規定されることが示された。

上記は学位審査に関する最終試験の結果より学位論文に値するものと判断した。